

令和元年度第2回能登中部・能登北部医療圏保健医療計画推進協議会
議事要旨

1 日時：令和2年2月6日（木） 14：00～16：00

2 場所：志賀町地域交流センター 大会議室

3 出席者：委員35名（委員名簿は別紙のとおり）

4 議題

（1）外来医療計画について

（2）公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証について

（3）個別医療機関の病床機能の見直しについて

5 主な意見

議題（1）外来医療計画について

●（委員）七尾市医師会は不足している診療科の開業医を求めているが、求職者はどの程度いるか、また、過疎地で勤務が可能というような方がどれだけいるか知りたい。

（事務局）本県では県の地域医療人材バンクと県医師会のドクターバンクの二つがあると認識している。県の地域医療人材バンクに求職の登録があるのは、公立病院等において勤務を希望する方が主であり、民間の病院や診療所の求職となると、医師会のドクターバンクに登録されることになる。なお、医局を通じて転職先や退職後の再就職先を探すケースがほとんどであり、県の人材バンクには県外から戻ってくる方などの登録が数件ある状況。

（委員）県医師会のドクターバンクには求人と求職の両方があり、マッチングを行っている。求職については金沢近辺を希望される方が多い印象がある。

（委員）今の県医師会のシステムは1個人と1医療機関の契約。これからは1地域でどれだけどのような科の医師が足りないか登録し、地域として求人をするようなシステムを作っていただきたい。

（委員）現状の県医師会のドクターバンクは「ある地域で開業しませんか」という求人の仕方ではなく、そのような形では対応できていない。現在、県医師会において、「高齢のため閉院を考えているが、週に数日働いてくれる医師に来てもらえるのであれば事業を続けたい」というニーズがあるか調査したらどうかという議論をしている。

（委員）診療を続けられない理由が高齢で体力的に厳しいということであれば、そういう需要はあると考えられる。しかし、人口減少により地域の受診者数そのものが減少し、事業の維持が難しい場合は今の話では対応できない。公的資

金を提供いただけないと診療を継続できないというケースも出てくると思う。

（委員）今後、都市部の勤務医で、定年でリタイアされる医師が出てくるのが予想される。山形県では、リタイアされた医師に対し、再度総合診療的な勉強をしていただき、いろいろな所で総合的なかかりつけ医をしていただくという取り組みがなされている。能登中部・能登北部でもそのような需要があれば検討していきたい。

●（委員）石川中央医療圏の方で、産業医ならやっても良いという方がいらっしやったら、隣接する能登中部圏域の事業所に来ていただけるとありがたい。

●（委員）医師の偏在を解消することは当然必要なことであるが、並行して、住民の方にかかりつけ医を持っていただくこと及びかかりつけ医にかかっていることの周知広報も行っていたきたい。

議題（２） 公立・公的医療機関等の具体的対応方針の再検証について

●（委員）富来地区も宝達志水町も医師数が少ない。２病院がなくなると住民は病院受診に係る移動が大変になる。また、訪問診療を担っているため、なくなると影響が大きい。医師会としても２病院を残していただきたい。

●（委員）富来病院は凄く頑張っていると思っている。確かにがんや心筋梗塞、脳卒中などの重症な時は七尾や金沢へ行ってしまいが、富来病院の良いところは、整形外科とリハビリテーションがとても充実しており、要介護の方を寝たきりにさせない工夫をしているところである。住民にとってはなくてはならない病院なので、住民の願いを聞き入れてなくさないでいただきたい。

●（委員）報道で宝達志水病院が挙げられた時、住民は凄く不安を覚えた。診療所が非常に少ない地域なので、宝達志水病院で診てもらわないといけませんが、「地域で最期まで頑張ろう」という中で地域の病院が無くなるというのは、最期は誰が面倒を見てくれるのか非常に不安になる。町に入院ができる病院があることは非常に大きな心の支えで、今後も診療所が段々減っていくのは必然的な状況と思うので、地域の核としての病院は、残していただきたい。

●（委員）今回の国の分析は９つの項目で診療実績が少なかつただけなので、富来病院と宝達志水病院については、特に外来機能や在宅機能で頑張っているところをアピールしていただければ良いと思う。しかし、国は「診療機能は今のままでいいのか、ダウンサイジングや機能転換を再度考えたほうがいいのでは」と言っている。

また、２病院から 75 歳以上の後期高齢者の人口が増えるので医療需要も増

えるという説明があったが、国では後期高齢者の増に伴う介護需要の増大をどうするのかということが議論の中心であり、医療需要を介護需要とイコールで考えるのはどうかと思う。

宝達志水病院は92%の稼働率で精一杯稼働しているが、富来病院は（病棟再編により地域包括ケア病床や介護医療院の稼働率は9割以上と改善されているものの、）一般病床の稼働率だけ見ると68%であり、現在の病床数が必要かどうかは、今後、調整会議等で議論する必要があると思う。病院を無くせという話は反対だが、提供する医療機能についてはもう少し議論する必要がある。

（委員）今回報告した内容は、医師が6名と少なくとも経営改善出来たということ。糖尿病やがんの診療に適切に医師を配置すれば、もう少し地域の要望に合った医療を提供できると思う。また、急性期の実績は少ないが、高齢者が何度も入退院を繰り返しながら看取りまで見守ることも地域の病院として住民のニーズがある。今まで病床利用率が少なかったが、ケアマネなど介護の方と連携することで病床の利用が増えた一年間だった。高齢化社会に向かうので、存続させていただきたい。

●（委員）宝達志水病院は町で唯一の病院であり、医療と介護の連携など地域包括ケアシステムに中心として取り組んでいただいている。また、病院医師には研修会などいろんな分野で協力していただいております、大切な病院であるので存続をよろしく願います。

議題（3）個別医療機関の病床機能の見直しについて
意見なし